

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 140,021千円 (前年度事業費：144,624千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その 他	県 債	一般 財源
前年度	144,624	38,818	0	31,627	0	0	1,000	0	73,179
要求額	140,021	38,605	0	17,531	0	0	1,000	0	82,885
決定額	134,389	38,605	0	17,531	0	0	1,000	0	77,253

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県美術館の収蔵品を展示する所蔵品展示、所蔵品による企画展、国内外の作品による多彩なテーマの企画展等を開催するための経費を措置する。

2021年度は、前年度開催予定であったがコロナ禍の影響により本年度に延期された大規模な西洋美術展をはじめ、素材に注目して新鋭・中堅作家を選抜した工芸展、国内有数の美術館と協働した企画展など3本を開催し、県民のニーズに応えると共に、新たな生活様式における美術館の重要性・必要性を広く伝える。

(2) 事業内容

ア 所蔵品展示 展示室1にて年間8回の展示替を行う

	第1期	第2期	第3期	拡大所蔵品展
会期	4月～7月	8月～11月	11月～2月	3月
展示替	4/12-14, 5/31	7/17-26, 9/21	11/4-8, 1/11	2/28-3/4

イ リニューアル後の展示室2の活用(独自企画展示)

① アートまるケットに関わる展示事業

令和3年8月11日(祝・水)～令和3年11月21日(日) 90日間

② 「IAMAS ARTIST FILE #07」展(仮称)

令和3年11月28日(土)～令和4年3月6日(日) 80日間

ウ 企画展 展示室3にて(独自企画展、大型巡回展)

① 「素材転生-Beyond the Material」(仮称)

令和3年4月24日(土)～令和3年6月20日(日) 50日間

② 「ミレーから印象派への流れ」

令和3年9月5日(日)～令和3年10月21日(木) 40日間

③ ポーラ美術館協力特別企画「日本洋画 美の系譜」(仮称)

令和3年11月19日(金)～令和4年2月6日(日) 62日間

エ アートまるケット事業

① 「アートまるケット 県事業 (AAIC)の継承・展開企画 アーティストとともにつくる企画展示」(仮)

令和3年8月11日(祝・水)～令和3年11月21日(日) 90日間

② アートコミュニケーター活動事業

令和3年4月～令和4年3月まで 事業継続

令和3年9月～令和4年2月まで 次年度新規募集事業

③ アーティスト・イン・ミュージアム【AiM】事業^{【拡】}

令和3年4～6月、令和3年11月～令和4年1月の2回開催

・作家が美術館に滞在し公開制作と展示を行う。

・館外において長期滞在型の制作を支援する。

オ 企画展準備費

① 令和4年度大規模企画展「前田青邨展」等準備費。

② 開館40周年記念事業、開館41周年記念展の準備のための作品調査。

カ 11月3日文化の日秋祭り事業の開催

キ 美術館ウェブサイトのリニューアル

(3) 県負担・補助率の考え方

県民が等しく文化芸術に関わる機会を創出するものであり、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	(千円)	事業内容の詳細
報償費	1,796	講師謝金
旅費	7,518	打ち合わせ旅費、研修旅費、講師旅費
需用費	21,498	展示用消耗品費、会議費、印刷製本費、光熱水費
役務費	4,231	通信運搬費、保険料
委託料	83,421	作品輸送展示作業、パネル等ディスプレイ作成他
その他	21,557	企画展負担金、著作権使用料、展示室用備品購入費
合計	140,021	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

県有施設の主催事業に要する経費を措置するものであり、県の関与が妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 県民が文化芸術に親しむ機会を充実させる。
 優れた芸術に触れて学ぶ機会を提供し、新しい文化の担い手を育成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

展覧会は内容や開催規模、時期によって動員数に大きな差があり、年度ごとに開催本数や期間も異なるため、達成度を図るような基準数値は存在しない。

（前年度の取組）

- ・所蔵品による企画展「ルドンと日本」（5/19～8/23）、「春の名品展」（5/19～7/5）、「日本画の逆襲 ふたたび」「ルドン、西洋美術コレクションから」（8/28～12/13）、「寄贈記念 熊谷守一展」（9/8～12/20）、「工芸・新収蔵品を中心に」（9/26～12/20）、「ぎふの日本画 いのちのりレー」（12/18～3/28）、「篠田桃紅と抽象の世界」（1/13～3/28）、「宮島達男」（1/13～3/28）
- ・企画展「Art Award IN THE CUBE 2020」（6/2～7/5）、「明治の金メダリスト 大橋翠石」（7/23～9/13）、「岸田劉生展一写真から、写意へー」（11/14～1/17）、「1894 Visions—ロートレックとその時代」（1/30～3/14）
- ・郷土ゆかり、若手作家による滞在制作と公開 「アーティスト・イン・ミュージアム」「AiM Vol.8 中路景暁」（9/8～10/25）、「AiM vol.9 三宅砂織」（2～3月予定）
- ・「アートまるケット アーティストがワタシントコにやって来た！岐阜県の滞在制作レビュー」（3/3～7/5）、アートまるケット 2021（1月～3月予定）

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 新型コロナウイルス感染予防のため長期休館したが、5月下旬に入念な感染症対策をとりながら美術館活動を再開。「ミレーから印象派の流れ」は令和3年度に延期し、岐阜県の主催する芸術祭 AAIC 2020 を皮切りに、郷土の重要な美術家の一人である大橋翠石の待望の回顧展、日本の近代洋画を代表する岸田劉生の巡回展、東京の三菱一号館美術館との共同企画展など、大型の企画展を開催。新しい生活様式に配慮しながら関連イベントを行った。
 休館中にはオンラインでの教育普及活動を多角的に展開し、自宅で楽しめるコンテンツを県民に提供し、多くの関心を集めることができた。また昨年度に続いて、県内教育機関、福祉施設等との連携を重視し、展示に生かした。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	美術館は県民のニーズに答えて美術品を展示し鑑賞の場を提供するところである。郷土ゆかりの美術家から国内外の著名な作家まで様々な視点から展覧会を行い、広く県民の要望に答えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	多くの来館者を得ており、美術館所蔵品の鑑賞の要望も高い。新たな事業も展開しており、館内外で行われる関連ワークショップや展示等についても参加者が多く、好評を得ている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	通常年間4本の企画展と8回の展示替による所蔵品展示を行う。常に新しい視点での展示紹介を心掛けるとともに、所蔵品の活用や、新聞社や企業の協力協賛を得て内容、広報共に充実させる努力を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>美術館の事業は展示室にとどまらず、館外での活動も増えている。県内の施設等との連携事業も増え、携わるスタッフの数が常に足りない状況である。また、リニューアル後展示室が拡張しており、その分の展示にも以前よりも経費がかかる。さらに人件費や輸送費などを含め企画費等が高騰しており、大規模企画展を行うためには予算の充実が必須である。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>美術館の魅力を引き続き広く県民に周知するべく大型企画展を3本行うと共にねんりんピック等の県主催の事業に協力する。美術作品の紹介から作家の制作体験、アートコミュニケーターによるアートへの関わり方の新たな提案まで、新しい時代の美術館の幅広いあり方を提案していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	